潮来市立延方小学校(NOBUKATA　ELEMENTARY　SCHOOL) 学校便り　2025. 5. 22発行

第３号
児童数 311名
(男182名女129)

のぶっ子

みんなが主役・みんなで学ぶ学校

あいことば：あいあい(I.I)大作戦　スローガン：やさしく かしこく たくましく

〒311-2442
潮来市小泉2090

Tel :0299-66-2076
Fax:0299-66-4692
URL:https://www.itako-school.jp/nobukata-el/

授業参観を行いました。たくさんの方々においで頂き、子供達は、はりきっていました。

１年生を迎える会を行いました。桜のアーチをくぐって会場に入って、一緒にレクリエーションをしたり、プレゼントをもらったりしました。１年生は元気な声で校歌を披露しました。

５年生が、北浦湖岸自然を守る会のご協力により、田植え体験を行いました。

１年生が学校探検をしました。校長室では、ソファに座って笑顔で話を聴くことができました。

１年生が県民の森に行きました。タンポポなどの花を採取し、春を感じることができました。

６年生が高齢者疑似体験等を行いました。高齢者をいたわることの大切さを学びました。

図書委員のみなさんが、図書室の使い方を説明してくれました。たくさん本を借りましょう。

２、４、６年生が歯科検診を行いました。検査結果は、後ほど児童を通して配付致します。

君もアンパンマンになれる を観ました。NHK で2011年に放送された「爆問学問」の再放送を中心とした構成でした。画面からは、アンパンマンの作者、当時92歳のやなせたかしさんが、「アンパンマンのマーチ」と「陸前高田の松の木」を熱唱する姿が飛び出してきます。後者は、やなせさんが作詞・作曲を手がけ、東日本大震災の被災地に全額寄付するためにCD化された曲です。この少し前、癌などの大病をした上、視力も落ちてしまったため、生前葬をして引退することを決めていた人にはとても見えません。さらにやなせさんは、「何のために生まれて何をして生きるのか」、「自分のやったことで人が喜ぶ、自分もうれしい」、「人生は喜ばせごっこ」と語りかけます。信念を貫くために引退を撤回して、自分ができることに精一杯取り組む。その姿は、「アンパンマン」と重なって見えました。

私が好きなやなせさんの作品に、「やさしいライオン」という絵本があります。あらすじはこうです。『ある国の野外動物園に、母と死に別れた子どものライオンと、わが子を亡くしたメス犬がいました。子どもライオンはやさしいお母さん犬に育てられて大きくなりました。お母さんと別れたライオンは、やがてサーカスの人気者になりました。月日が流れたある夜、檻の中で眠っていたライオンの耳に、母犬のなつかしい子守歌が聞こえてきました。「お母さんだ！」ライオンは檻を破って町へ飛び出しました。突然現れたライオンに町は大騒ぎになりました。ライオンは、町外れで今にも息絶えそうになっているお母さんを見つけました。その時、警官隊のライフルが…。』このライオンには、幼少期に実母と別れ、伯母に育てられたやなせさん本人の姿が投影されていると言われています。

やなせさんは、自分から苦労話をする人ではなかったようです。しかし、前述のお母さんのこと以外にも、５歳で実父を亡くし、戦争でたったひとりの弟とも死に別れています。やなせさん本人も、兵隊として中国に送られ、約５年間、飢えやマラリアなどの病気に苦しみます。運良く生きて日本に帰ってきますが、敗戦を境に、正義のために戦ったのは日本ではなく、中国やアメリカだったと言うことになっていました。「本当の正義とは何か。」やなせさんは自問自答します。「本当の正義とは、お腹がすいている人に食べ物を分けてあげることではないだろうか。しかし、自分の食べ物をあげてしまったら自分が飢えるかもしれない。いじめられている友だちをかばったら自分がいじめの標的にされるかもしれない。」「本当の正義とは自己犠牲を伴うものだ。」この信念が下地となって、困っている人に自分の顔を分け与える、誰もが大好きなアンパンマンが誕生しました。

2013年、やなせさんは94歳で息を引き取ります。しかし、その信念は「アンパンマン」という形で、今もわれわれの心の中に生き続けています。

参考文献:「やなせたかしの生涯　アンパンマンとぼく」梯 久美子 著　2025文春文庫